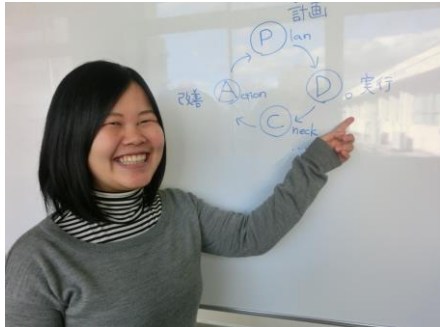


ふりがな 氏名	おくだ まいこ	都道府県	島根県	
	奥田 麻依子			
所属/肩書	海士町役場/隠岐島前高校魅力化コーディネーター			
私の ESD活動	離島の高校で「地域の文化を継承し、未来をつくる人財の育成」を目標に、地域資源を活かした教育を推進			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

持続可能な社会づくりを教育から進めるモデルをつくるべく、「島前高校魅力化プロジェクト」に携わっている。本校は地域内唯一の高校であり、その存続は地域の存続と直結する。また、地域の存続には「地域の未来をつくる人材の育成」が必要不可欠である。その育成を学校の中だけでなく、行政・地域住民等、多様な主体を巻き込み、地域総がかりの体制で進めている点が本活動の特徴であり、平成23年度には「キャリア教育推進連携表彰(文部科学省・経済産業省主催)」の優秀賞、平成25年度には「第1回プラチナ大賞」の大賞・総務大臣賞を受賞している。

活動①「地域学」「地域地球学」…「地域創造コース」で開講している授業で、地域の方も講師として招きながら、地域の課題を学んだ後、関心を持ったテーマについて、少人数のチームでの課題解決策を提案・実践する。「地域地球学」では、世界で起こっている問題と地域での課題とのつながりも学ぶことで、グローバルな視点を持った上で地域での実践を行えるようカリキュラムを組んでいる。また、これと並行して、活動の際に必要なスキル(対話、多文化協働等)を学ぶ授業も行っている。授業を通して地域社会に対して自分も何かできるという実感を得た生徒の中には、進学先の留学制度を活用し、欧州でコミュニティビジネスの事例を学びながら、隠岐のPRを行うなど、世界と地域をつなぐ活動を行う生徒も出始めた。

活動②「ヒトツナギ」…島の魅力的な‘人’、その営みを観光資源と捉えた観光プランである。島探検やホームステイを通して島の人と交流し、島の生活に触れる4泊5日の旅を高校生主体で実施している。これからの地域社会に重要な「つながり」の価値を高校生が再認識し、それを他の人に伝えていくという点でも意義のある活動である。この企画を通して、島の魅力を感じた島外の中学生在が「島留学」生として高校に入学し、運営側として関わるケースも出てきている。

- ・島根県立隠岐島前高等学校: <http://www.dozen.ed.jp> (地域創造コースカリキュラム、ヒトツナギ等)
- ・島前高校魅力化プロジェクト: <http://miriyokuka.dozen.ed.jp/> (プロジェクトの背景、取り組み概要等)

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

日本は多くの課題に直面しており、隠岐は、その日本の中でも僻地と言われる離島で「課題先進地域」である。しかしながら、関係者が危機感とビジョンを共有し、連携しながら様々な取り組みを続けることで、それが少しずつ形になってきた。そして、最近はそのような大人達の背中を見て育った高校生が「自分達も何かしたい」と行動し始め、その取り組みがまた地域に活力を与えるという好循環が生まれてきている。

課題と向き合いながら育ち、多様な価値観を受け入れやすい若者だからこそ、ESDの担い手の中心となり、これから育つ若い世代だけでなく、これまでの社会を背負ってきた上の世代とも協働しながら、新たな取り組みを行って行けるのではないかと考える。さらに、それぞれが個別に活動するにとどまらず、志を同じくする者同士がつながることで、学びのネットワークができ、連携や協働が進み、社会的にも大きなうねりをつくっていくことができるのではないかと考える。